

最後の日々と時間

科目責任者 Wolfgang Roland Ade
学年・学期 1 学年・2 学期

I. 前 文

生物学および社会的観点から「死」を捉えることは、人類の思索の核心にあり続けてきた。本講義では、長寿化に伴う生活習慣病や悪性腫瘍の増加を背景に、「死」に関する生物学的、疾病学的、人類学的課題を社会的・法的側面とともに探求する。さらに、こうした多角的な視点を通じて、「死」を巡る現代社会の課題と医療従事者の役割について深く考察する。

II. 担当教員

Wolfgang Roland Ade

III. 一般学習目標

医師は一般市民よりも頻繁に「死」と向き合う立場にある。そのため、「死」という課題に対してより受容的な態度を身につけ、患者が臨終を迎える際には適切な支援を提供するとともに、深い悲しみに包まれた親族に寄り添い、適切な対応ができるようになることを目指す。また、「死」という事象に対し、冷静かつ従容たる態度で行動し、対処できる能力を養うことを目的とする。

IV. 学修の到達目標

- 「死」や「死にゆくこと」に関する基本的な概念を理解し、正確に説明する能力を養う。
- 患者やその親族に向けた終末期ケアに必要なコミュニケーションの基礎を学び、理論的に適切な対応を考えられるようになる。
- 多様な文化や価値観における死の解釈や儀式について理解を深め、それらが医療に与える影響を認識する。
- 死の哲学的側面を学び、医療者としての視点からそれらを考察し、自分の考えを整理する力を培う。

V. 授業計画及び方法 * () 内はアクティブラーニングの番号と種類

- (1：反転授業の要素を含む授業（知識習得の要素を教室外で済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態。）
2：ディスカッション、ディベート 3：グループワーク 4：実習、フィールドワーク 5：プレゼンテーション
6：その他)

回数	月	日	曜日	時限	講 義 テ ー マ	担 当 者	アクティブ ラーニング
1	7	9	水	5	人生の始まりと終わり	Wolfgang Roland Ade	1
2		16	水	5	生物学的・人類学的・哲学敵視点から見た死	Wolfgang Roland Ade	1
3	8	20	水	5	人類学的・哲学敵視点から見た死	Wolfgang Roland Ade	1
4		27	水	5	人間の尊厳	Wolfgang Roland Ade	1
5	9	3	水	5	自死、非自発的過失致死、殺人等	Wolfgang Roland Ade	1
6		10	水	5	緩和医療と自死帮助	島 田 宗 洋	2
7		24	水	5	アルフォンス・デーゲンの「死生観・死の準備教育」	Wolfgang Roland Ade	1

Ⅵ. 評価基準（成績評価の方法・基準）

期末レポート 50%, ショート・テスト 10%, 出席状況・態度, 講義中の発言 15%, 予習レポート 10%, 復習 レポート 15%

Ⅶ. 教科書・参考図書・AV資料

講義中に必要に応じて配付します。

Ⅷ. 質問への対応方法

講義中いつでもどうぞ。それ以外は事前に日独連携推進室へ予約してください。内線番号は2153。

Ⅸ. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

*◎：最も重点を置く DP ○：重点を置く DP

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）		
医 学 知 識	人体の構造と機能, 種々の疾患の原因や病態などに関する正しい知識に基づいて臨床推論を行い, 他者に説明することができる。	
	種々の疾患の診断や治療, 予防について原理や特徴を含めて理解し, 他者に説明することができる。	
臨 床 能 力	卒後臨床研修において求められる診療技能を身に付け, 正しく実践することができる。	
	医療安全や感染防止に配慮した診療を実践することができる。	
プロフェッショナリズム	医師としての良識と倫理観を身に付け, 患者やその家族に対して誠意と思いやりのある医療を実践することができる。	○
	医師としてのコミュニケーション能力と協調性を身に付け, 患者やその家族, あるいは他の医療従事者と適切な人間関係を構築することができる。	
能 動 的 学 修 能 力	医師としての内発的モチベーションに基づいて自己研鑽や生涯学修に努めることができる。	
	書籍や種々の資料, 情報通信技術〈ICT〉などの利用法を理解し, 自らの学修に活用することができる。	○
リサーチ・マインド	最新の医学情報や医療技術に関心を持ち, 専門的議論に参加することができる。	○
	自らも医学や医療の進歩に寄与しようとする意欲を持ち, 実践することができる。	◎
社 会 的 視 野	保健医療行政の動向や医師に対する社会ニーズを理解し, 自らの行動に反映させることができる。	
	医学や医療をグローバルな視点で捉える国際性を身に付け, 自らの行動に反映させることができる。	
人 間 性	医師に求められる幅広い教養を身に付け, 他者との関係においてそれを活かすことができる。	
	多様な価値観に対応できる豊かな人間性を身に付け, 他者との関係においてそれを活かすことができる。	

X. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

毎回の小テストのフィードバックはメールで行います。

XI. 求められる事前学習, 事後学習およびそれに必要な時間

シラバス別冊に記載。

- XII. コアカリ記号・番号
シラバス別冊に記載。